

郷土かわらばん

江戸川の開削

江戸川という大河が流れる流山。今回は、江戸川の成立と流山との関係について調べてみました。

江戸川ができる前、江戸時代初期には、現在の群馬県から流れてきた利根川は、現在の東京湾へ流れていました。この流路を東に移し、利根川本流を太平洋に流れるようにした複数の工事の結果、江戸川は生まれました。その目的は、周辺の舟運の利便性向上を図る目的だったといわれています。

江戸川通水工事

江戸川通水工事を指揮したのは小島正重と言う人物で、直接の主君、伊奈忠治

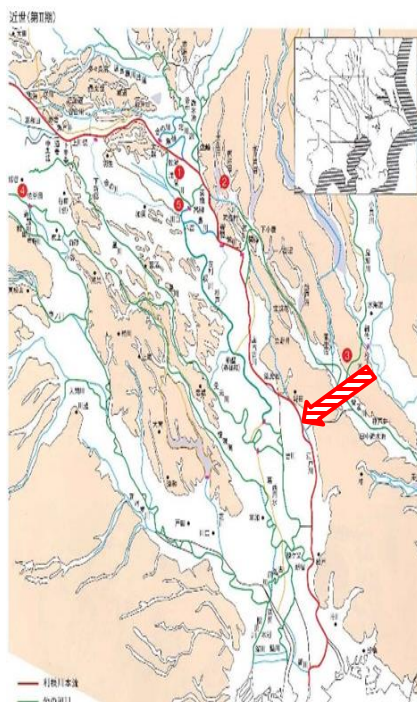
は、徳川将軍家に仕えて勘定方と代官を兼任していました。小島はその家臣として三代将軍家光の裁可のもとこの事業に取り組みました。この工事に要した期間は三年から十年と言われ、完成年についても諸説ありますが、一六五〇年には通水していたようです（最も早い説は一六四一年）。

二つの深井新田と

平方新田・平方村新田

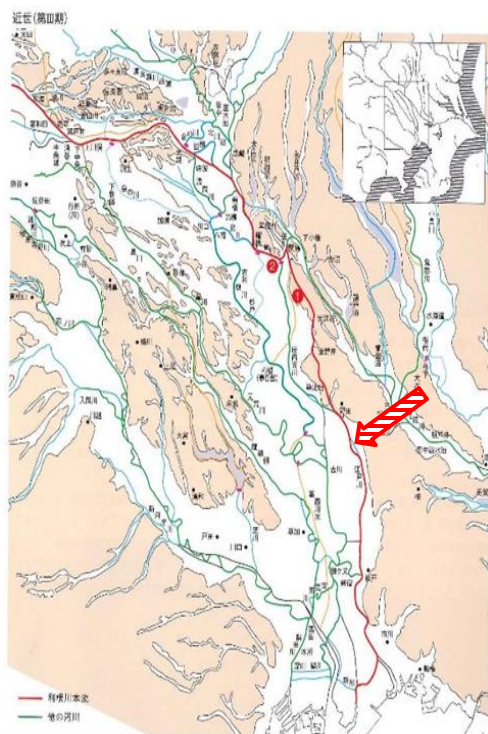
こうして江戸川は完成したのですが、享保十三年（一七二八）八代将軍吉宗に、紀州にいたころ登用されて幕府勘定所に仕えていた

一六二二年当時の利根川流路



①寛永17年(1640)・江戸川の開削 ②寛永年代(1620~1643)・区内吉川開削(推定)
③寛永6年(1629)・元利根川・利根川付替 ④寛永6年(1629)・利根川・利根川付替
⑤寛永6年(1629)・利根川・利根川付替 ⑥寛永6年(1629)・利根川・利根川付替

図8 近世(第Ⅱ期)の利根川



①寛永17年(1640)・江戸川の開削 ②寛永年代(1620~1643)・区内吉川開削(推定)

図10 近世(第Ⅲ期)の利根川

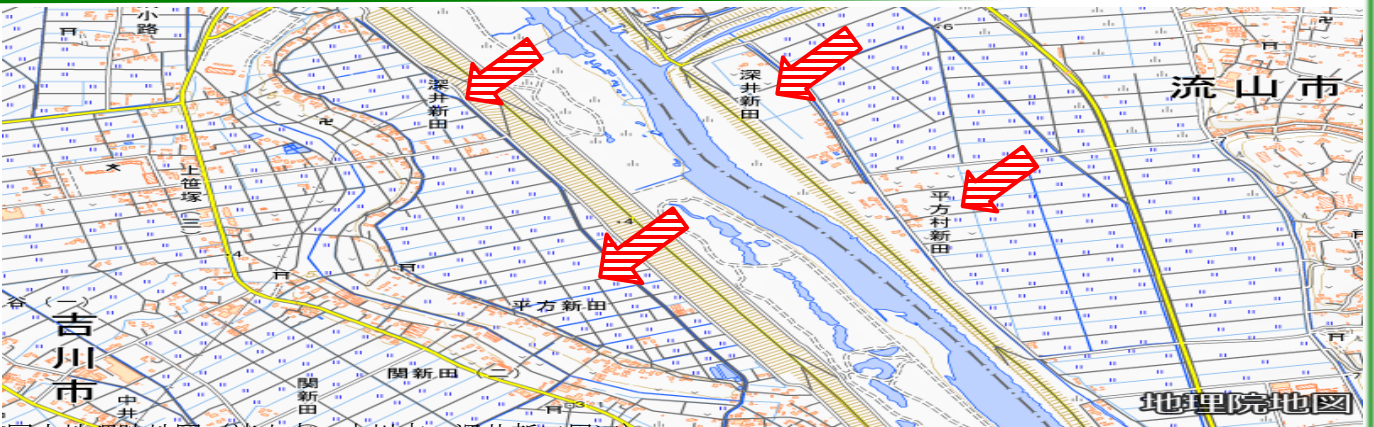
森の図書館
twitter
@N_mori
noto



発行
流山市立
森の図書館
指定管理者
株式会社
すばる

井沢弥惣兵衛によって金杉、平方新田まで改修工事が行なわれました。現在直線になっているこの区間は当時、蛇行しており舟運や洪水の問題が発生していたためです。直線化によりこれらの問題は軽減されましたが、その影響で深井新田、平方新田などは分断されてしまいました。

流路が変わり分断されてからも両地域は下総国に属していましたが、明治二十八年（一八九五）に江戸川の西にあった千葉県が埼玉県に、東にあった埼玉県が千葉県に県域変更されたことで解消されました。なお現在は、千葉県側は平方村新田、埼玉県側は平方新田と呼ばれています。また、現在の新川小学校及びこの周辺の旧地名新川村等の「新川」の名の由来は、当時、この地域の人々がこの江戸川を、新しい流路の川、新川と読んでいたことにあります。



国土院地図（流山市・吉川市、深井新田周辺）

(<https://maps.gsi.go.jp/#15/35.904294/139.880633/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1> 参照日2019-10-08)

かんじようかた

※勘定方・・・江戸幕府、大名の諸役所で財務関係の仕事に携わる役人
だいかん

※代官・・・將軍の代わりに村々を治める役人

参考文献

・国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所／編 『えどがわ ながわ あやせがわ River for lie』

国土交通省江戸川河川事務所 2004年

・『江戸川の水はどこから来るの？』 自然通信社 2002年

・千葉県立関宿城博物館『平成18年度企画展図録 利根川東遷と関宿藩』
千葉県立関宿城博物館 2006年

・『利根川治水物語』
財団法人河川情報センター 1995年

・流山市立博物館／編著
『チエック！流山のむかし』
流山市教育委員会 2016年

・伊藤晃 『江戸川物語』 崙書房 1981年

・山本鉦太郎 『江戸川図志』 崙書房 2001年

・青木更吉 『歴史とロマンの里流山』 崙書房 2018年

以上、流山市立図書館の所蔵資料です。

・澤口宏 『利根川東遷 人によって作られた利根川の謎を探る』 上毛新聞社 2000年

・松浦茂樹 『利根川近現代史 附戦国末期から近世初期にかけての利根川東遷』 古今書院 2016年

・東洋大学地域活性化研究所プロジェクト『河道変遷と地域社会 利根川東遷を中心に』 東洋大学地域活性化研究所 2009年

・『江戸川誕生物語』 野田市郷土博物館 2002年

以上、野田市立図書館の所蔵資料です。
・コトバンクHP
(<https://kotobank.jp/>)

流山について詳しく調べたい時は、是非活用ください。

協力

流山市立博物館・図書館
千葉県立関宿城博物館